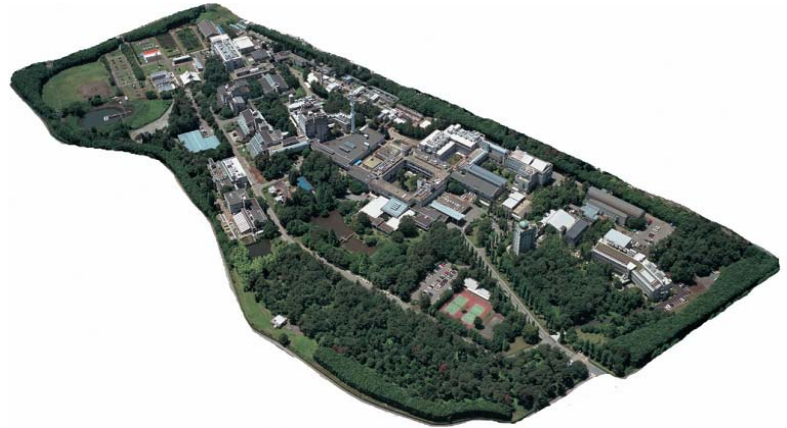


① 環境の世紀のフロンティア 独立行政法人国立環境研究所

国立環境研究所では、環境に対する多様な社会的ニーズに応えるため、学際的な環境研究に対応しうる組織体制の下で、理学、工学の他、農学、医学、薬学、水産学、経済学など、自然科学のみならず人文社会科学もカバーする多彩な専門研究者を擁し、幅広い環境研究の実施及び環境情報の収集・整備提供等を行っています。

具体的には、社会的な要請が強く、環境研究としても大きな課題とされている6つの重点特別研究プロジェクト、環境行政の新たなニーズに対応する2つの政策対応型調査・研究、創造的・先導的な基盤的研究等を実施しています。

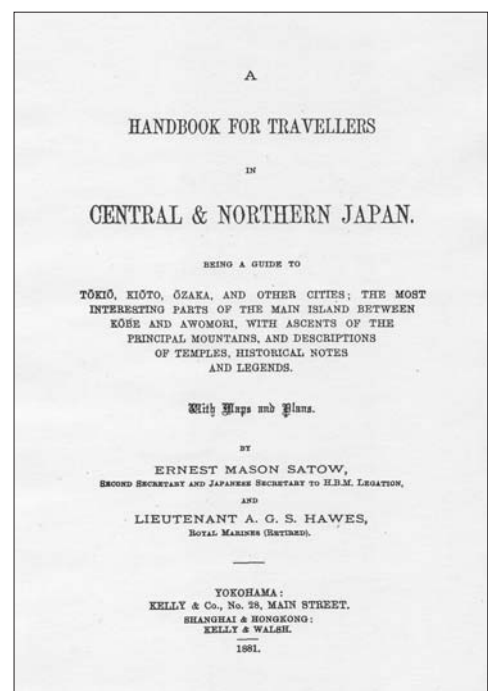


国立環境研究所メインキャンパス（つくば市）

② 西洋から見た日本風景の評価 — 100年前までの来日旅行者の記述を調べて —

今後100年に及ぶ日本の風景計画の立案に資するために、日本の優れた風景について西洋の視点から探りました。16世紀から西洋には風景画が広まり、このような素養を持った人々は、当時の日本は美しいと記していました。中にはこのまま世界の公園として保存したらどうか、という意見を述べる人も居ました。初期には、主に旅行が許された海岸部からの眺めに関する記述ですが、江戸末期に開国されて、奥地への旅行ができるようになると、山々や溪谷、湖、田園などに日本の美しさを見出す記述が現れました。このような記述を調査することにより、日本の風景美とはどのようなものであったのかについて明らかにし、これからの日本の風景計画への提案に役立てたいと思っています。

1900年までに来日した西洋人による記述の和訳を調べ、日本の風景について、どこで、誰が、いつごろ、どんな景色について感動したのかについて調べました。その結果、彼らは恵まれた気候条件による多様な植物の繁茂と花、美しい高木、美しい新緑、多様な紅葉美、豊かな植生、巨木の茂る森、南北の植物の並置、農村の快適な小道、手入れの良い農耕地、壮麗な針葉樹の並木、段々畑、美しい入り江、美しい山々への見晴らし等、細かな地形が創り出す風景の変化を楽しんでいることが分かりました。また南北の気候条件の違いや、太平洋側と日本海側の自然の違いなどの風景の変化を楽しんでいたことが分かりました。



19世紀に出版された日本旅行ガイド